

平成21年度第3回 「学習支援者の集い」開催さる
学習支援委員会

開催日：平成21年11月27日（金）

出席者：委員、支援者、支援候補者 50人

来賓： KSCマネジャー 中山 喜統 様
KSC学習支援リーダー 松本 容子 様

1. 全体会議

(1) 「戦争体験総合学習」の現況と授業実演

担当委員より「本年度、戦争体験学習について星和台小学校、ひばりが丘小学校、道場小学校、渦が森小学校、宮本小学校、竹の台小学校、なぎさ小学校、若草小学校の8校から支援要請を受け、いずれも昔遊び研究会（会長入江敏行氏）の全面のご協力に対応している。戦争体験学習人気が年々高まってきたことを反映して、19年度 2校、20年度 5校、21年度 8校と支援要請校が急増している。この調子では現在携わっている語り部の陣容では対応出来なくなって来た。」と、戦争体験総合学習の現状報告がありました。併せて「戦争を何らかの形で体験された方が私たちと一緒に活動してくれたらありがたい。」と、語り部としての参加要請がありました。また、戦争体験の話を聞いた先生から「私達はまったく戦争を知らない世代です。私も、子ども達と共に戦争の悲惨さをしっかりと受止め、平和のありがたさをこれから先、子ども達に語り伝えたい。」という声があったことが紹介されました。（後掲、大好評！道場小「戦争と平和」授業の項参照。）

続いて、西阪順三氏が講師となって「神戸大空襲」の映像データを交えながら、生々しい悲惨な空襲の実体験を語っていただき、「戦争と平和」の授業を約40分間実演いただきました。

身をもって体験された西阪さんが小学校で語り部として行っているお話を、直に聞くことができ、大変感銘を受けました。涙を流しながら聞き入る、女性の学習支援委員の方もおられました。

(2) 平成21年度学習支援活動の現状

次に、中沢学習支援委員長から次のとおり支援の現状報告がありました。

現在、学習支援要請 54校に対して、支援校38校（昨年36校）となっている。支援校38校のうち20校に対して特別支援を行っており、依然として

特別支援の要請が高いレベルにあります。

今年、英語学習支援の要請が5校からありました。また、戦争体験談が6年生の社会科の勉強に取り入れられていますが、多くの学校がこの授業で勉強してから修学旅行でヒロシマに行き戦争について学んでいます。今年、戦争体験談の要請が昨年に対して倍増していますが、日本伝統文化の要請はゼロとなりました。各学校において、学習指導内容の変更が続いています。

以上の現況報告のあと、「シルバーカレッジ事務局の松本リーダーには、日頃力強くバックアップしてもらっているの、この場を借りて感謝申し上げます。在校生に理解してもらって、参加者が増えつつあり、うれしく思っています。」と、感謝の言葉がありました。

(3) 特別支援活動に係る課題解決への取組みについて

渡辺委員からこの問題について次のとおり中間報告がありました。

支援要請が増大する特別支援については、学校側の対応問題など課題も多いところから、神戸市教委委員会にお願いし、指導部特別支援課と情報交換の場(会合)をもつことが出来ました。先般、これまで集い等で聞いてきました現場の問題（私たち支援員に対する学校長・教頭・先生方の対応差、学校側の学習支援活動に対する理解度合、支援活動への謝金問題など）を、特別支援課の方に率直に訴え、実情を聞いていただきました。特別支援課の方の回答は「そんな学校ばかりでないと思うが、今一度、校長にはその都度話をしたい。」とのことでした。これからも、再三ミーティングをもつことになっています。皆さんから意見や問題を聞かせてもらって、より良い方向にもっていきたいと思います。力不足で無い知恵を絞ることになるかもしれませんが、意見をどしどし寄せてください。学校側の対応が悪かろうが、拙かろうが、私たちは子どもたちのためにやっていることを忘れてはいけないと思います。

2. ディスカッション「皆で考えよう悩みと課題」

今回のディスカッションは、従来のやり方を改め、事前アンケートで収集した「学習支援活動の具体的な悩みや課題」に基づいて全員で議論いただきました。終始、熱のこもった経験交流となりましたが、主な意見や体験談は以下のとおりです。（次頁へ続く）